

説 教

伝道礼拝

北浜チャーチ
黒田禎一郎

2019年3月31日（日）

主 題：「すこやかでいなさい」

—心の居場所—

テキスト：詩篇46篇1－7節

はじめに

- ・日本は豊かになった！ とにかく便利な時代になりましたね。都会生活をしている者には、何でも手に入ります。特に現代は、インターネットの普及によって、簡単に連絡が可能となりました。しかも世界的レベルで通信が可能となり、世界の情報も瞬時に手に入る時代となりました。
- ・私がドイツで生活をしていた時代は、日本からドイツへ手紙を送るのに約1週間は必要でした。ですから。手紙を書いて返事をもらうには、往復で約2週間は必要でした。国際電話は非常に高額で、学生の身ではとても使用できませんでした。ところが、今は違います。簡単に、しかも無料で国際電話もかけられることが可能の時代となりました。
- ・また AI(人工知能)の発展によって、監視カメラでは何万人もいる中から、一人の人物を発見できる時代となりました。自動車はAIの発展によって、もうすぐ自動運転が実用化されようとしています。時代は確かに大きく発展し、進んできました。
- ・しかし、ここで少し立ち止まってみましょう。私たちが耳にするニュースでは、「いじめ」、「虐待」、「不正」(汚職)、などの問題が後を絶ちません。大変便利な時代となりましたが、私たちは本当に心満たされているでしょうか・・・？
 - 青年たちは居場所を求めています。
 - 荘年も居場所を求めています。
 - シニアたちも居場所を求めています。
- ・世代を超えて、それぞれに問題があることは確かでしょう。つまり、心安らげる居場所がないのです。そこで人は、本当の意味で「心休める所」を求めています。
- ・本当に心休ませる場所は、どこにあるのでしょうか？
 - すなわち ⇒「心の居場所」です
 - 今日、私たちは心休まる居場所について考えてみましょう。

大切なポイント

1. 居場所の特長

1) まことの居場所は ⇒ 「安心」を提供する

- 人は心の中で、「安心」（やすらぎ）を求めています。
詩篇作者は次のように歌いました。詩篇 46 : 1 - 3
46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。
46:2 それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。
46:3 たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。
- 神は、私たちに安心を与えてくれます。詩篇作者は言いました。
46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。
なんといい、すばらしい詩でしょうか。
ここにいれば大丈夫！ このお方に信頼すれば安心だ！
→ そこが安心できる居場所です。
神は大いなるお方です！ 安心（平安）を与えるお方です！
- そこが、一番心休まる居場所であると歌いました。
著者は、⇒ 神こそ平安、平和の源であると歌いました。
{例 話} ダマスコのキリストの教会
 - 中東シリアは、内戦が続いていました。IS（イスラム国）との激しい戦闘の中、多数の人々の命が失われました。シリアは一党独裁体制の下で、18の民族と宗教グループが共存していました。その彼らはカリフ王国建設を叫ぶISと、しばらく前まで激しく戦っていました。常識を超える恐ろしさに包まれ、300万人以上が難民となり国外へ避難しました。
 - そういう中、首都ダマスカスにあるキリスト教会（アブドラー牧師）は、次のように語りました。“私たちの教会は、西側からの救援物資（小麦、米、砂糖、ミルク、医薬品、衣類など）を、約1千300の家族に配給し、戦火でキリストの愛を伝えています。”
 - そのような中、教会では礼拝が開かれクリスチャンたちが集まりました。彼らは救援物資をもらうために集まっているわけではありません。その中に、教会学校に通う一人の少女がいました。彼女はロケット弾の直撃を受け、両足を失っていました。しかし彼女の父親は、娘を抱いて教会に連れてきていました。
 - そして彼は、教会は娘にとって「居場所」なのです。と言いました。
激しい戦闘がつづく中、心休まる所（居場所）、そこが教会であると、父親は語りました。私はその父親の語った言葉が忘れられません。

2) まことの居場所は ⇒ 心休まるどころ

- ・私をそのまま包んでくれる所です。どんなに環境が大変でも、そこは、幼児が母親の腕に抱かれ、安心して眠るような所です。たとえ、苦しみがあっても、心の深い所で平安があるところです。

{例 話}

Jakob Esau 世界巡回伝道師の「思い出」。

彼には「私には青年時代はなかった！」と語りました。多くの励ましを私に与えてくれました！彼は、25年もシベリアで収容所生活を送り、前後5回の獄中体験を持つ人でした。

- ・しかし、心に神を迎えていた彼は、苦しかったが、常に平安があったと言いました。「神は失敗をされないお方」(失望を与えないお方)と、言いました。
- ・彼の人生の大半は、ほとんど貧しさと苦しみの中でしたが、神とともにいた日々、そこが私の「居場所」であった。と言いました。苦しみ(戦い、試練)はあっても、「真の居場所」を持つ人は幸いです。

- ・詩篇の作者は次のように歌いました

46:2 それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。

46:3 たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。

2. 居場所を求めなさい

{例 話} ノートルダム清心学園元理事長：シスター渡辺和子

- ・カトリック教のシスターで、教育者でもあったシスター渡辺さん、残念ながら召されてしまいました。私は生前、シスター渡辺が語ったことばが忘れられません。
- ・彼女には多くの著書がありますが、その中で「置かれた場所で、咲きなさい」(2012年)という名著があります。シスター渡辺は、その中で次のように語っています。
- ・私は、修道院の中で非常に厳しい立場に置かれ、「やめよう」と思ったことがありました。その時、かつての上司だったアメリカ人の神父様から、「あなたが変わらなければ、どこへ行っても、何をしても同じだよ」と言われ目が覚めました。
- ・他人の出方次第で、幸せになったり不幸せになったりしては、環境の奴

隷にすぎません。自分が積極的に動いて初めて、幸せを手に入れることができます。

- 就職活動を一生懸命やっている学生が、思うところから内定が来なかったと言って落ち込んでいることがあります。シスター渡辺は、次のように言いました。「あなたがいただいた内定。そこで咲いてごらんなさい。難しくても、幸せはいつも自分の心が決めるのだから、人を憎んでは駄目。上司が悪い、何とかが悪い、そういうことではなくて、自分が変わることを大事にしましょうね」
- ずっと順風満帆な人生なんかありませんね。逆境の時にどうするか。不機嫌になるか。ほほ笑むか。いくつもの分岐点があります。
- いかがでしょうか。私たちの人生は一度しかありません。大変、貴重です。その貴重な人生を、私たちはどのように送っているのでしょうか。人生で心休まる居場所を持つ人は幸いです。まことの居場所、それは神がともにいてくださる所です。詩篇46篇の作者は、自分の心が休まる居場所を歌いました。
46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。
46:2 それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。
- では、なぜ神とともにいることが「心安まる所」でしょうか？
⇒ 神は真のお父様であるからです。天地創造の神が、私たちをもお造りくださり、しかも愛（不変の愛）してくださっています。私たちは、どんなに苦しく、辛くても、神は遠くにはおられません。いいえ、近くにおられ「助け主」であるからです。私たちの真の必要を知っておられ、私たちに平安を与えてくださるからです。
- 神はあなたに向かい、「あなたの人生、そこで咲いてごらん！」と声をかけてくださっています。天地の創造神がともにいてくださる所（居場所）を持つ人は、幸いです。聖書は次のように薦めています。
7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。マタイ
- 神が置いておられる所、そこは神がともにいてくださいます。
皆さん！　そこで自力で、頑張って花を咲かせるのではありません。いいえ、神が花を咲かせ、実を結ばせてくださいます。イエスは言われました。
ヨハネ福音書
「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。枝が木につながれば、豊

かな実を結びます。」

- ・神がともにいてくださる所(真の居場所)、そこで神が花を咲かせてくださり、実を結んでくださいます。イエス・キリストは、そのために来てくださいました。いかがでしょうか。今日、私たちは真の居場所である神を信じようではありませんか。そして、心休まる人生を送ろうではありませんか。

ま と め

主 題：「すこやかでいなさい」

—心の居場所—

- ・今日、私たちは大切な「心の居場所」について聞きました。神は私たちに「すこやかでいなさい」とお語りくださっています。
- ・神が与えてくださる「居場所」には；
 1. 私を包んでくれる
 2. 私の心が休まる
- ・あなたも今日、神を信じ真の居場所を持つ人になってください。そして健やかな人生を送ってください。

God bless you !